

事務事業評価表 平成23年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 市街地整備の充実
 基本事業 江別の顔づくり

事業名 **江別の顔づくり事業 (商業等活性化事業)**

[0311]

| | | | | | |
|----|---------------|--------|---------|----------|------|
| 部名 | 建設部 | 事業開始年度 | 平成11年度 | 実施計画事業認定 | 対象 |
| 課名 | 顔づくり推進室 都心整備課 | 事業終了年度 | 平成 - 年度 | 会計区分 | 一般会計 |

| 事務事業の目的と成果 | |
|------------|--|
| 対象 | <p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>野幌駅周辺地域 野幌駅周辺地区活性化計画における対象区域」</p> |
| 意図 | <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>街なかに賑わいを醸し、商業等の活性化を図る</p> |
| 手段 | <p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>市民交流や活動の為に拠点をつくり商店街や活性化活動団体の行う活性化活動を支援する。</p> |

| 事業量・コスト指標の推移 | | | | | | |
|-----------------------|------------------|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 区分 | | 単位 | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度実績 | 23年度当初 |
| 対象指標1 | 野幌駅周辺の面積 | ha | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 対象指標2 | | | | | | |
| 活動指標1 | 活性化活動拠点の利用回数 | 回 | 876 | 699 | 640 | 500 |
| 活動指標2 | 野幌商店街で開催したイベントの数 | 回 | 11 | 12 | 11 | 9 |
| 成果指標1 | 活性化活動拠点の利用者数 | 人 | 4,052 | 5,003 | 5,136 | 5,000 |
| 成果指標2 | | | | | | |
| 単位コスト指標 | | | | | | |
| 事業費計 (A) | | 千円 | 1,080 | 2,278 | 1,119 | 1,611 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 20,895 | 20,745 | 28,210 | 28,511 |
| | | | | | | |
| 総事業費 (A) + (B) | | 千円 | 21,975 | 23,023 | 29,329 | 30,122 |

| 費用内訳 | |
|------|-------------------------------------|
| 22年度 | 旅費 10千円、需用費 6千円、負担金 補助及び交付金 1,103千円 |

事業を取り巻く環境変化

| | | | |
|--------|--|-------------|---|
| 事業開始背景 | | 事業を取り巻く環境変化 | H18.6.20都市計画決定（鉄道高架事業、土地区画整理事業、街路事業） H18.11.9事業認可告示（鉄道高架事業） H18.11.24事業計画決定（土地区画整理事業） |
|--------|--|-------------|---|

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・根拠は？

疲弊が懸念される野幌駅周辺地区に市民交流施設等を整備することで、市民の憩いの場が形成、賑わいや集客の向上、商店街をはじめ駅周辺地区の魅力向上につなげるために、市の役割として必要である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・根拠は？

未だ始動期であり本格的な市街地の基盤整備に着手していないことから、全市的な市民交流活動拠点は整備されていないが、地域活性化活動の継続実施や新たな市民活動が行われている状況である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・根拠は？

野幌商店街に地域交流拠点が2箇所開設され、拠点での活動や商店街ジャック等の商店街を舞台とした活動が活発化している。また、商店街・事業所関係者や地域住民等が中心となった地元協議会等が市と協働で地域活性化のための計画を策定し、取り組みを行っている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小 なし

理由・根拠は？

地元協議会等による地域活性化のための計画が策定され、それに沿って関係者が地区の魅力向上に向けた取り組みを実践することで、より成果が向上する可能性が高い。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・根拠は？

商店街や地域活動団体、NPO等の組織力や経済力の向上が図られると、市の支援の軽減も可能となる。